

## 令和元年度森林・林業白書の総括

### 1. 閣議決定・公表までの経緯

(1) 令和元年度白書では、冒頭の特集において、「持続可能な開発目標 (SDGs) に貢献する森林・林業・木材産業」をテーマとして、我が国における SDGs と森林・林業・木材産業の関係性を整理しつつ、様々な経済主体において広がりつつある林業・木材関係者との協働の動きを、企業に対するアンケート結果も含め、広く紹介するとともに、関係者の今後の課題・役割について記述した。

トピックスでは、「①森林経営管理制度、森林環境譲与税のスタート及び国有林野管理経営法の改正」、「②東京オリンピック・パラリンピック競技会場等における木材利用」、「③中高層建築物等の木造化・木質化に向けた動き」、「④スマート林業を始めとした「林業イノベーション」の推進」、「⑤令和元年房総半島台風、令和元年東日本台風による森林被害や山地災害等への対応」を紹介・解説した。

(2) 昨年9月以降、計3回の施策部会において御審議いただき、本年4月の林政審議会（書面開催）で諮問し、その結果を受け林政審議会長より答申が行われた。6月16日に閣議決定の後、国会提出を行い、公表した。（別添1）

### 2. 閣議決定・公表後の動き

#### (1) 報道

時事通信では、特集テーマである「持続可能な開発目標 (SDGs) に貢献する森林・林業・木材産業」を中心に、林業産出額についても取り上げられた。

また、林業・木材産業の業界紙等においては、特集テーマについて初実施の企業アンケート結果等が紹介されたほか、森林経営管理制度、森林環境税、スマート林業等についての内容が掲載された。

さらに、日刊工業新聞や北海道建設新聞といった、林業・木材産業以外の業界紙においても、特集や林業産出額について紹介記事が掲載された。（別添 2）

## （2）広報・普及

閣議決定本の配布、市販本の出版、解説記事の投稿等を行った。

また、林野庁企画課の担当者等が説明会において、現時点で計 30 回（うちオンライン 13 回）、約 1, 200 名に白書の概要についての説明を行った。（別添 3）

## （3）主な評価

説明会でのアンケート調査等では、SDGs と森林・林業・木材産業と関係を知ることができて良かったという評価が多く見られた。また、スマート林業や森林サービス産業等の取組についての理解が深まったという評価があった。（別添 4）

具体的な評価については以下のとおり。

- ・ 日本の林業は深刻な状態というイメージがあったが、今回の白書では林業の明るい未来に向けた取組が紹介されていたので希望が持てた。
- ・ 今回の SDGs の整理は、国民からの森林・林業・木材産業への期待を寄せ集めると実感している。
- ・ 国産材の安定的な生産、林業の持続的な収益化に向けて、事業レベルで新たな取り組みを進めていただきたい。
- ・ 離れた場所にいたが、オンライン説明会のため参加できた。

令和元年度森林・林業白書の  
閣議決定・公表までの経緯

令和元年9月5日 第1回施策部会

- ・作成方針（案）の検討

12月2日 第3回施策部会

- ・令和元年度森林及び林業の動向  
（構成（案）、主要記述事項（案））

令和2年3月5日 第4回施策部会

- ・令和元年度森林及び林業の動向（原案）
- ・令和2年度森林及び林業施策（原案）

4月30日 林政審議会（書面開催）

- ・令和元年度森林及び林業の動向（案）
- ・令和2年度森林及び林業施策（案）  
（諮問）

令和2年6月16日 閣議決定・国会提出・公表

## 令和元年度森林・林業白書に関する主な報道について

紙名	日付	記事の概要
時事通信 時事通信 iJAMP	6/16	<p>【SDGsと森林のつながり提示 企業の実践後押し—林業白書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国連が掲げる持続可能な開発目標（SDGs）と森林・林業のつながりを初めて特集、60超の事例を盛り込んでおり、SDGsを経営戦略に組み込む企業に役立ててもらおうと説明。森林を有効活用した取り組みにも着目し、森林セラピー体験を含む研修や「林福連携」を取り上げたことを紹介。</li> <li>・2018年の林業産出額が18年ぶりに5000億円を超えたと紹介。近年、丸太の輸出や木質バイオマス発電など新たな需要が伸びた影響だと説明。</li> </ul>
北海道建設新聞	6/17	<p>【SDGsと森林のつながり提示 企業の経営戦略に 林業白書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsと森林・林業のつながりを初めて特集、60超の事例を、SDGsを経営戦略に組み込む企業に役立ててもらおうと説明。2018年の林業産出額が18年ぶりに5000億円を超えたと紹介。</li> </ul>
日本農業新聞	6/18	<p>【林業白書 企業6割が活動実践 メリット提示に課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国内企業の森林・木材利用状況を調査し、60%超が関連活動を実践・予定しているという結果が出たと紹介。SDGsの実現に向けて森林関連産業を有望視する半面、活動を広げるには「企業側のメリット」を明確にする必要があるとの声が多く、より多くの企業をどう取り込むかが課題として浮かび上がったと説明。国内企業の活動状況等、企業アンケートの結果も一部記載。</li> </ul>
	6/20	<p>【論説 林業白書 成長と循環で再生促せ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGs達成に向けて林業が役割を発揮するには、山村の再生が成否の鍵を握っていると指摘。白書は「伐って、使って、植える」という循環利用を基本にした管理が、SDGsの実現に貢献することを示しており、特集で取り上げたのは、森林・林業の成長産業化とSDGsに沿った管理の両立を目指す決意表明とも言えると説明。</li> <li>・森林・林業の現状に対して、林野庁は森林経営管理制度や森林環境税の導入で循環利用にてこ入れをされており、白書はその政策の背景と狙いを詳しく示したと説明。一方、山村社会のインフラ整備や就業機会の創出などに関する記述は厚みに欠けると指摘。</li> </ul>
家具新聞	6/21	<p>【SDGsへの貢献をテーマに 林業白書、初のウェブ・アンケートも掲載】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特集でSDGsへの森林・林業・木材産業による貢献を掲載していることを紹介。また、企業や個人が取り組む60以上の事例や、企業へのウェブ・アンケートの結果を掲載していることを紹介。各トピックスや各章の概要もそれぞれ紹介。</li> </ul>

農村ニュース	6/22	<p>【林業白書を決定 伐採など自動化へ、スマート林業フル活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・白書においては、トピックスの中で「スマート林業のフル活用」を取り上げ、林業の成長産業化に向け、情報の高度利用、安全性などの課題に対処することが必要だと指摘した上で、ICT等を活用した「林業イノベーション」の展開方向を示したと紹介。</li> </ul>
農機新聞	6/22	<p>【林野庁、令和元年度森林・林業白書を公表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・森林・林業・木材産業のSDGsへの貢献を特集、60を超える事例を分類し、森林との多様な関わりを紹介していると説明。</li> </ul>
日刊工業新聞	6/23	<p>【SDGsと森林のつながり提示 森林・林業白書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsと森林・林業のつながりを初めて特集、60超の事例を、SDGsを経営戦略に組み込む企業に役立ててもらおうと説明。2018年の林業産出額が18年ぶりに5000億円を超えたと紹介。</li> </ul>
林政ニュース	6/24	<p>【日本と世界の最新版『白書』を読む 「森林」はどう語られているか？】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の『森林・林業白書』、FAOの『世界森林白書2020』のポイントを続けて紹介。日本の白書ではSDGsを特集していることを紹介、SDGsと森林・林業・木材産業は相性が良いことを白書内の図も使用して説明。</li> <li>・国内企業を対象に実施した、白書のアンケートの結果を紹介。白書においては、企業は林業・木材産業の現状や予算確保などに関する情報が十分ではなく、ビジネスチャンス逃していると指摘しており、企業に森林組合などを紹介する“橋渡し役”として地方公共団体などの行政機関に期待をかけていると紹介。他にも、SDGsの達成に向けて参考となる60社以上の取り組みを掲載したと紹介。</li> </ul>
日刊木材新聞	7/3	<p>【2019年度 森林・林業白書 SDGsと森林・林業・木材産業を特集 ビジネスチャンスに期待】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsと森林・林業・木材産業との関係が60以上の事例紹介で分かりやすく解説されていると紹介。企業へのアンケート結果から、森林の整備・保全や木育などを始める企業が増えていることや、企業との連携に積極的な森林組合・林業事業者等の紹介が求められていることなどが示されており、業界側が自ら動くことでSDGsをビジネスチャンスにつなげてほしいとの期待が込められていると紹介。白書作成者のコメントも掲載。</li> <li>・白書においては、19年度に竣工や着工、計画発表が相次いだ中高層・大規模木造の事例も紹介していると説明。「木造化がここまで進んできた、ということを示せたと思う」との長官のコメントを記載。</li> </ul>
フォレストジャーナル	7/17	<p>【SDGs×林業の関わりとは？ 森林・林業白書から改めて整理する〈前編〉】※後編は未公表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsに則って森林の役割を整理することで、森林と社会的諸課題の関係が具体的な目標として改めて明らかになるため、SDGsの理解が重要だと説明。</li> </ul>

## 令和元年度森林・林業白書の広報・普及について

### 1. 閣議決定本の配布

閣議決定本を3,000部印刷して、国会に提出(約140部)するとともに、関係府省(約100部)、都道府県(約240部)、都道府県立林業試験場(約50部)、国会図書館(25部)、都道府県立図書館(約110部)、市立図書館(政令市のみ)(約40部)、林業関係団体(約300部)、農業高校(約70部)、大学・短期大学等(約50部)等に配布。

また、農林水産省ホームページにPDFファイルを掲載。9月にHTML版を掲載(昨年度から語句検索機能を実装)。

### 2. 市販本の出版

広く一般向けに周知することを目的に、印刷・出版の要望があった2者に対し出版許可を行い、市販本計6,450部を出版・配布。

- ・ 一般社団法人全国林業改良普及協会 : 5,000部
- ・ 一般財団法人農林統計協会 : 1,450部

### 3. 説明会の開催

地方農政局、大学、林業大学校等に、林野庁企画課の担当者等が直接赴き、又はWEB会議形式にて現時点で計30回、約1,200名に対して、森林・林業白書の概要を説明(大学等の説明会では、自由記述のアンケート調査を実施)。

#### (1) 4白書合同説明会

全国の地方農政局等において、農・食・林・水4白書の合同説明会を開催。都道府県、市町村、林業関係者等を中心に、計10回、約400名が参加。

北海道農政事務所(8/3)、東北農政局(8/7)、関東農政局(7/16)、北陸農政局(7/8)、東海農政局(7/21)、近畿農政局(8/26)、中国四国農政局(中国会場)(8/25)、中国四国農政局(四国会場)(9/10)、九州農政局(熊本会場)(7/20)、九州農政局(福岡会場)(7/29) 沖縄総合事務局(新型コロナウイルス感染症拡大により中止)

#### (2) 大学、林業大学校での説明会

全国の大学等において、主に講義の一環として、白書説明会を開催。農学部等の学生を中心に計17回、約600名が参加。現在、3校と調整中。

筑波大学（7/20）、東京大学（7/22）、東京農工大学（7/21）、日本大学（7/22）、新潟大学（7/28）、岐阜県立森林文化アカデミー（8/19）、三重大学（7/16）、京都大学（7/30）、京都府立大学（8/7）、近畿大学（7/28）、岡山大学（7/29）、高知大学（8/5）、高知県立林業大学校（9/9）、九州大学（7/27）、宮崎大学（7/17）、鹿児島大学（7/28）、琉球大学（7/17）

### （3）その他の説明会

以下の組織・団体等において白書説明会を3回開催。約120名が参加。

- ・ 日本林政ジャーナリストの会（7/14）
- ・ 林業団体懇談会（7/9）
- ・ ウッドソリューション・ネットワーク（7/1）  
（農林中央金庫及び木材関連企業等が参画する情報プラットフォーム）

## 4. 紹介記事の投稿

森林・林業関係誌等に、白書の紹介記事を投稿。

- ・ 「林野-RINYA- 6月号」（林野庁広報室）
- ・ 「森林と林業 6月号」（日本林業協会）
- ・ 「森林組合 6月号」（全国森林組合連合会）
- ・ 「山林 7月号」（大日本山林会）
- ・ 「森林技術 7月号」（日本森林技術協会）
- ・ 「農林水産省 公式フェイスブック」（大臣官房広報室）
- ・ 「林野庁 公式フェイスブック」（林野庁広報室）において、白書特集で取り上げた様々な主体によるSDGsの取組事例を紹介（12回連載）

## 5. その他の情報発信

その他、白書の紹介と活用に向けた提案等を実施。

農林水産省「消費者の部屋」において、森林・林業関連図書と併せて白書を紹介する展示を実施。

- ・ 本の森に出かけよう～森のめぐみと白書の知識～（8/3～8/28）

千代田区立日比谷図書館「日比谷カレッジ」において、9/23に講演会を予定（別添3-1）。また、図書館内で白書の内容を紹介する展示を実施。

- ・ 林野庁×日比谷ビジネスSDGs：なぜ今、都会で山林を考えるのか？～『森林・林業白書』と多業種の木材利用や森林活用参入に学ぶ～（9/23、展示期間8/10～9/30）

（以上）



## 林野庁×日比谷ビジネスSDGs

## なぜ今、都会で山林を考えるのか？

～『森林・林業白書』と多業種の木材利用や森林活用参入に学ぶ～

2020年 9月23日(水) 19時～20時45分(18時30分開場)

 申込開始 8月10日(月・山の日)  
 関連展示 8月10日～9月30日 当館3階

## 講師と演題：

河南 健 林野庁 林政部企画課課長 「企業や個人が取り組む、森の恵みとSDGs」

関本 和彦 TDKラムダ㈱ 経営企画本部本部長 「一企業と森林とのつながり」

 小林 道和 ㈱竹中工務店 木造・「森林の持続可能性を高める都市の木造建築」  
 木質建築推進本部部長

国土の約7割を森林が占め、環境、防災面からも私たちの暮らしを支える山林について知ることは、都会の私たちにも不可欠です。伐採期を迎えるわが国の林業において、木材利用や森林活用にどんなニーズがあるのか、実際に取り組む企業の現場担当者からお話を伺うとともに、この6月に新たに公表された『森林・林業白書』の最新版について、林野庁の担当官に解説していただきます。

私たちは何を考え、どう行動すべきか、何が必要なのか。森林や木材利用に様々な方法で関わり始めた企業の取り組みやICTを活用した新たな林業などについて学びます。森林への関心を高め、地域の暮らしの維持を考える機会に、あるいはサステナブルな社会に向けた新たなビジネス創出や研究のヒントに、長期視点が求められる今、未来を読み、未来をつくるための講座です。(SDGs=Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標)

定員 60名(事前申込順、定員に達し次第締切)

参加費 1,000円

会場 日比谷図書文化館 地下1階日比谷コンベンションホール(大ホール)

会場定員は207名ですが、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として定員を減らしています。館内では必ずマスクをご着用ください。入館時に消毒、検温、入館票記入にご協力ください。今後の感染拡大状況により変更となる場合がございます。あらかじめご了承ください。

## 申込方法

①ホームページの申込みフォーム ②お電話(03-3502-3340)いずれかにて参加希望の講座名、お名前(よみがな)、電話番号をご連絡ください。小学生以下のお子様参加の場合、保護者の同伴が必要です。

## アクセス

●都営三田線「内幸町駅」A7出口/徒歩3分  
 ●東京メトロ丸の内線「日比谷駅」B2出口/徒歩3分  
 ●千代田線「霧ヶ岡駅」C4出口/徒歩3分  
 ●JR「新橋駅」日比谷口(SL広場)/徒歩10分


 協力：林野庁  
 イラスト：平田 美紗子

 主催：千代田区立 日比谷図書文化館  
 千代田区日比谷公園1-4(日比谷公園内)  
<https://www.library.chiyoda.tokyo.jp/hibiya/>



## 令和元年度森林・林業白書に対する主な評価

### 1. 全般に関するもの

- ・ 日本の林業は深刻な状態というイメージがあったが、今回の白書では林業の明るい未来に向けた取組が紹介されていたので希望が持てた。
- ・ 現在の、木材利用や森林利用についての動向について説明を受け、それらがどのように用いられているのか、ということが具体的な例を挙げられていたため、とても身近に感じることができた。
- ・ 近年のデータを用いることで、日本林業の現状を確認でき、また、近年のデータでも良い方向に変化していることもあることが確認できた。
- ・ 有益な図表が常に多数あり、流用拡散されることが適切な理解と意欲の普及に繋がると思う。今はネットでの拡散も容易。白書（か林野庁）の良いロゴマークを図に記載して活用しやすくしてはどうか。

### 2. 特集に関するもの

- ・ 各テーマに対して関連するSDGsが設定されており、環境や社会課題の解決に改めて森林林業が重要な要因として関わっているということを知った。
- ・ 世界的にも、日本国内でも森林・林業が重要視されて来ていること。それに伴う取り組みも進んできていることを実感した。
- ・ 環境に配慮した企業の取り組みが多く紹介されたのが印象に残った。また、そういった取り組みに参加する企業が想像よりも多く、驚いた。
- ・ 森林・林業・木材産業は持続可能な開発目標に馴染みやすく、森林の持つ機能や林業の大切さをしっかり国民に訴えていく必要があると感じた。
- ・ SDGsに森林・林業の取り組みを照らし合わせるとこれ程の機能を持っていたことが分かり、驚かされた。
- ・ 今回のSDGsの整理は、国民からの森林・林業・木材産業への期待を寄せ集めると実感している。
- ・ 企業が自社の事業とSDGsを結びつける為に必要なノウハウやコストといった部分の不足、SDGsを推進することによるベネフィットのわかりにくさといった部分が問題と捉えている。事業者に対するSDGsの推進にはセミナーやコンサルテーションが必要と考える。

### 3. トピックスに関するもの

- ・ オリパラ競技場に認証材が多く使われている話だが、建物が認証建築物

になっていないので、認証材の認知度向上に今ひとつインパクトが弱いと考える。

- ・ 林業や森林が与えている影響や、事柄について詳しく知ることができたためとても良かった。特にスマート林業については最新の技術を利用してさまざまなことが行われていたため、その事柄について知ることができてとてもためになった。
- ・ 林業イノベーションという言葉は初めて聞いた。スマート農業のような最新技術を林業にも取り入れることで収益性、効率性が上がれば今後の林業に女性、若い世代が参入しやすいと感じた。その分その技術を取り扱う勉強や、機械を購入するお金も必要となるので釣り合いが難しいとも思った。

#### 4. 通常章に関するもの

- ・ 森林環境譲与税の適用範囲についての解説が有益で分かりやすかった。
- ・ 林業管理で最もコストが生じるのは雑草の管理であるという点は意外だった。林業に機械化を導入するためには山地における交通の整備が重要であるように感じた。
- ・ 森林サービス産業はこれからだと思いますが、制度の充実と産業の活性化を期待する。
- ・ 住宅や建物の資材は基本コンクリートや鉄筋だろうと思っていたので、低層住宅の木造率が高いという話や 4 階建て以上でも木造化が進んでいるという話は少し意外だった。木材産業の活性化や森林環境を守るためには木材資源を有効に活用する仕組みが必要だと思う。
- ・ 国産丸太が今後日本の住宅需要の派生需要となるよう、国産材の安定的な生産、林業の持続的な収益化に向けて、事業レベルで新たな取り組みを進めていただきたい。

#### 5. 説明会に関するもの

- ・ PDF を見たときかなり多いと思ったが、説明いただいてしっかり読んでみたい気持ちになった。
- ・ オンラインで投票を挟んで進行したのはよかった。
- ・ 離れた場所にいたが、web で開催されたおかげで参加することができた。
- ・ SDGs を中心とした説明で分かりやすかったが、施業や木材生産のシビアな話が少なく、現場での実際の施業の方向性などは定まっていないのかな、という印象を受けた。